

## 第5回「防潮堤を勉強する会」議事録

日時：2012年8月24日（金） 18時00分から20時00分

場所：ワンテン2F 大ホール

主催：「防潮堤を勉強する会」（事務局：スローフード気仙沼）

講師：（1）唐桑大沢地区 熊谷光広 様  
（2）唐桑鮪立地区 小松浩平 様  
（3）鹿折地区 阿部道康 様  
（4）鹿折鶴浦地区 小松洋一 様  
（5）松岩片浜母体田前浜地区 遠藤英あき 様  
（6）内湾地区 畠山喜勝 様

司会：高橋正樹

### 1. 開会のあいさつ（司会）

「本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日の資料を確認させていただきます。まず次第でございます。いつもですと、これまでの勉強会の要旨と予定表がありますが、本日はなく、今日の勉強会の後に発起人会がありまして、そこで今後の予定が決まっていきます。次回29日には新しい予定表、3回目4回目のまとめの方もお配りできるかと思えます。カラーの表紙の資料が8月16日に宮城県から示された各地区の現行案のつづりです。黒い表紙が各地区の別添の資料集です。最後に発表していただく、内湾、魚町2区の資料がついています。大島地区を含め前回と今日の12地区のまとめをしているA4資料と振り返りシートが本日の配布資料となっております。」

### 2. 注意事項、前回までの振り返り（発起人：菅原昭彦）

「前回までの振り返りと注意事項をお話しさせていただきます。国、県、市の考え方も聞いてくることのできた。多角的に防御をどうするか、津波防災をどうするか考えることのできた。浮上式防潮堤を含む防潮堤のいくつかのパターンを知ることができた。前回100名近い方に参加いただいた。各地区の状況ということで最初に選んだ6か所の話をしていただいた。各地区において地域の中でどうしたいかが大切となる。地域の実情は地域に住んでいる人が一番分かっているのも、その人達が積極的に関わることが必要。一方でそういった人たちが集まって話し合いをする中で方向性を出していくには専門家の活用も必要であることが議題になってきた。前回までのA3の資料の1番から6番までを参考にしてください。前回までにみえてきた課題は、この後4番の課題の整理で詳しく説明したいと思えます。ここは勉強会であるので、質疑は承るが、主張は避けていただきたい。大島の

方、遠方の方のためにも、本日よりユーストリームでの配信を始めました。このあと6か所の地区の事例について勉強していきたいと思います。」

### 3. (1) 報告 各地区からの現況報告 唐桑大沢地区 熊谷光広 様

※別紙資料「各地区情報交換会一覧表」「防潮堤各地区現行案①」

・大沢地区集団防災移転

・去年6月に防災集団の帰省同盟会を立ち上げ、防集メニューに移転候補地と被災地の利用方法を考えるプランがありました。未来集会の度に住民同士でテーブルディスカッション行ってきた。時間が過ぎると共に跡地利用方法がメニューから外れ防集事業の方で行うという方向にプラン変更した。市役所との情報交換をした際に、大沢地区で多数の事業計画が発生するというを確認した。そのことを踏まえて大学の先生方に連絡し、大沢の模型、各事業のメニューをあてはめるとコンクリートで囲まれて窪地が多数発生することがわかり、景観がとても悪化することを知り、大学生たちから防潮堤のイメージ図、資料作ってもらい、みんなで勉強している。

テーブルディスカッションの中で大沢地区では8割の方が防潮堤必要という声があがっている。

(ここで講師交代)

・横浜市立大学大学院田辺、現在は大沢地区の高台移転から復興まちづくりの支援活動を行っている。

防潮堤に関して大沢地区で現在どのような勉強がなされているか。全体像として、資料にあるように漁港の部分、南側の海の部分、青野沢の部分3か所の防潮堤の計画がされている。今は発表にはなっていないが、青野沢との堤防にかかる45号線、青野沢の主流になるよばいし川、この2か所についても堤防のかさあげが行われるのではないかと考えている。

題府側からしては計画高を見た時に非常に高い計画だと思った。しかし住民の方にとってみると高さで図面だけではイメージしにくいという課題を把握した。

防潮堤の高さを誰もがイメージできるようにして、共通のイメージを持ってから、判断を行ってほしい。防潮堤のありなしを誘導するのではなくて、どのような現状の計画がなされているのかを把握したうえで判断してほしい。

イメージを共有する目的で3つのことを提案した。

1つ目が、大沢地区周辺にある身近なものの高さのイメージ

2つ目が、防潮堤の高さを、ロープを引っ張って体育館で体感してもらう

3つ目が、CGの作成。実際作ってみると周瑜グラフがどのようになるのかというイメージ

1つ目の高さについてのイメージは、大沢地区内にあるローソン、TP+ 8mだと銀行ATMと書かれている看板の下くらいまでの高さが防潮堤の高さのイメージとなる。

少し内容は違うが、陸前高田の3.6 mの高さのイメージは資料にある通り。

2つ目の点で、大沢未来集会という会の中で、防潮堤のロープを傾斜をつけて引っ張ってもらって住民に下から見てもらい、防潮堤の傾斜がどのようになっているのかを把握してもらった。

3つ目のCGの作成。高台移転先の候補地を含む防潮堤とかさ上げされたイメージを作成。実際今ある神社がかなり埋まってしまうという現状を把握してもらった。南側の堤防も現状とCGによって現行案のイメージを把握してもらった。

2回3回のワークショップによって、地区としては防潮堤が必要であるという大まかな方向性が出てきている。防潮堤の位置や形に関しては今後のワークショップにおいて議論を行っていく。

現状の課題として、防潮堤が複数作られることによって窪地が発生する。図の黒で囲まれた部分2か所、完全にまわりが防潮堤に囲まれた区域が出てくる。中の浸水地、後背地の土地利用を考えた場合、何にも使いようがない、使うにも高いところから道をおろして建物を建てたりなどの課題がある。

防潮堤の位置形状に関して住民内で合意をとった場合、その意見はどの程度実現の可能性があるかということも課題である。

#### 4. 報告への質疑応答 (Q=質問者、A=回答者：熊谷光広 氏)

Q. 住民の皆さんが防潮堤は必要だということだが、高さは国が提示している高さなのだろうか？

A. 今の段階では想定高はそのまま。TP+8 m。それを今から勉強してそれが必要かどうかを今から考えていきたい。

Q. 大島地区の小松さん。CGで住民の方に示されたというのはとても効果的であったのではないかと思う。正直うらやましい。希望するところがあれば、現在示されている計画をCGによって作成していただくことは可能か？

A. 作成しているのは神戸大。

(神戸大の小川君) 作成したのはCGが得意な先輩。1週間くらいかけて作っていた。地図データがあれば良いが、紙媒体から図面を作っていくと時間が結構かかる。

(司会者より)

29日に、CG、3Dで協力したいという会社があり、現在交渉中であるが、そちらも期待してお待ちください。

Q. 防集も含めて、気仙沼の中でも速い地域ではないかと思うが、だいたい毎回何割くらいの住民の方が参加しているのか？

A. 大沢地区みらい集会、これまでは防災集団移転の中に入った人を対象としていた。その

中でだいたい140軒あまりの参加者がいた。

テーマごとによって人数は違うが、その中でおよそ7,80名は参加して話しあってきた。

#### Q. 大沢地区で他の地区との意見の対立はないのか？

個人的な意見だが、他の地区は浜が2,3か所ある。大沢地区は1か所しかない所以对立はない。

### **3. (1) 報告 各地区からの現況報告 唐桑鮪立地区 小松浩平 様**

※別紙資料「各地区別添資料集」「防潮堤各地区現行案②-21, 22」

唐桑町鮪立地区は去年3月11日の大津波で大きな被害を受けた。被害の概要は家屋流出は半壊を含め94軒、280世帯中の3分の1にあたる。なくなった方は13名。その他3名がまだ行方不明である。

震災後、鮪立自治会で鮪立復興委員会を立ち上げ、公安部会、道路部会、集団移転部会を設置し、様々話し合いを行ってきた。各部会7,8名で構成されている。私は公安部会に所属しています。自治会委員と各部会との話し合いを元に市に対して昨年の9月に各部会の要望書を提出した。委員会は月1回程度で開催している。集団移転、防潮堤、地区内の道路整備について東京大学生産技術研究所の太田研究室の学生、建築家の佐藤氏を始め、様々な大学などで構成された「鮪立港まちづくり100人会」の協力を得て進めている。防潮堤については、今年の3月29日に、鮪立漁港の災害復旧工事説明会で、宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部より、鮪立漁港は元の海岸の位置に、高さ9.9mの直立的な防潮堤を設置することで国の査定を受け予算を確保できていると説明を受けた。初めての説明に対し、出席していた70から80名の地区民のほとんどの人が反対した。県は予算を確保しているものの、今後住民の意見を聞いて決定することから、宮城県の案がまとまるまで様子を見ながら相談することにした。現在の場所に直立的な防潮堤を作るのは絶対に反対であることを確認し合った。その後6月に市との漁業集落に関する意見交換会が開催され、その中でも防潮堤の位置や形状は住民と相談しながら決定するとの話があった。防潮堤の在り方は漁港の整備や鮪立の復興マスタープラン作成にあたって重要なポイントであることから、自治会では防潮堤に関するアンケート調査を実施し、地区の方がどのように考えているかを調査委した。アンケート調査は今年の6月に実施し、7月6日に集計した。対象は鮪立1区から4区、5区は山の上なので対象外とした、仮設入居者など約200世帯に行き、回収率は75%となる151世帯であった。その結果は、防潮堤の設置計画について、県の担当者や新聞、人に聞いたことがある人が119人で74.9%、噂などで聞いたことあるがよくわからない人が30人で18.4%であった。解答者の93.3%の人が何らかの形で防潮堤について知っているという予想以上の結果を得た。

設置の必要性に関しては、必要なしは51人32.9%、必要あるは31人20%、海岸か

ら離れた場所、つまり山川に高さを低くして設置するならば良いと思う人52人33.5%、どちらでも良いが15人9.7%であった。

この結果を分析し、検討話し合いを進めていきたい。

今後のまちづくり、地域づくりを考える時、防潮堤を全面的に設置することは漁港としての機能が損なわれ漁業活動に悪影響を及ぼすと考えている。

何よりもそこで生活する人々の理解が必要である。鮪立地区の復興はこれから。地元の意見や考え方を県や市に伝え、要望し鮪立港まちづくり100人会などの協力を得ながら地区の復興に取り組んでいく。

### 3. (2) 報告への質疑応答 (Q=質問者、A=回答者：小松浩平 氏)

特になし

### 3. (1) 報告 各地区の現況報告 鹿折地区 (阿部道康) 様

※現行案資料④—1

(司会)

続いて鹿折地区であるが、本日出席予定の方が急遽来れなくなったため、事務局の方から鹿折地区の現況についてお伝えしたいと思う。

(事務局 菅原氏)

今回の鹿折地区については、聞き取った内容でお話させていただく。4人の方に色々お話をさせていただいたが、そこで出た言葉が「基本的に鹿折地区でもそういった説明会は開かれたが、具体的にどこか動き出すといった動きはないのではないか」、というのがみなさんの答えだった。今日鹿折の方もいらっしゃると思うので、違うということであれば逆にそういった情報をいただきたいと思う。ここでは水産加工団地の組合に入っている、カネエイ阿部商店の阿部さんという方からいただいた情報を元にお話したいと思う。

基本的に海側の工場地帯、気仙沼ほていなどがあった辺りは、防潮堤を早急に整備して安全なところで仕事をしたいのではないかと、というお話である。それから、住居商業区域と言われていたかもめ通りや本浜の方については、なかなか人が集まって話す機会がないので、防潮堤に関しての話よりもまずは自分たちの住むところとか、生活基盤の話の方が最初ではないかということだった。そして、一番この防潮堤の問題で悩ましいところは、対岸である浪板側である。浪板側が一番海に面したところに企業や会社、住まいがあった。なので、この波板側について話し合いが今後重要になってくるのではないかと思う、とのことである。以上のように、なかなか聞きとれないくらい話し合いの状況が不透明であった、ということだけの報告にさせていただきたいと思う。

### 4. 報告への質疑応答 (Q=質問者、A=回答者：(阿部道康) 氏)

(司会)

質問されても菅原さんも困ると思うので、鹿折地区については事務局の方でもコンタクトをとってみたいと思う。

### **3. (1) 報告 各地区の現況報告 鹿折鶴ヶ浦地区 小松洋一 様**

まず、鶴ヶ浦地区の環境、ならびに地区の生活状況をお話させていただいた後、本題の防潮堤について説明させていただく。

鶴ヶ浦地区はご存知のとおり、気仙沼市内から車で約20分の鹿浜地区、まちの方から大浦、小々汐、梶ヶ浦、鶴ヶ浦、と一番東側に位置している。今でも海と山に接した環境の良いところにある。地区住民数は震災前、48世帯140名ほど暮らしていたが、震災後の現在は、約28世帯80名ほどの人口になっている。海岸沿いの低いところに住んでいた住民は被害を受け、高台に住んでいた人は被災を免れるという、典型的な表れではないかと思う。

地区の生活状況を見ると、居住エリアや公共施設、地区の漁業や、カキ・ホタテといった養殖業の実態、鶴ヶ浦漁港の使用状況の震災前、震災後の異同などを比較した場合、当然ながら数段の悪化が見られる。漁港についても震災前のことになるが、以前の漁港整備からもう40年近く経過しており、漁港の一部破損があったため、新しい漁港整備事業を推進すべく、前市長の頃になるが、漁港付近の海底ボーリング、調査測量の予算をいただき、調査が終了したばかりの状況であった。

さて、本題に入ると、生命、財産、そして国土を守るために防潮堤の整備について、鶴ヶ浦地区でも計画案を示していただいたが、その中で、防潮堤の高さをTP+9.9mに設定する場所、あるいは従来の高さを維持して復旧する場所、そして震災前から防潮堤のない海岸沿いの道路、市道になるが、70cm、あるいは80cmの道路のかさ上げのみを行なう場所、当地区の場合、3つの案が示されている。当地区の場合、鶴ヶ浦漁港は漁港のランクでいくと、気仙沼市の水産課の管轄になる。場所によっては農地海岸復旧工事との兼ね合いもあり、一部宮城県気仙沼地方振興事務所管轄に分かれている部分もある。

なぜ津波災害を考える上で地区全体の防潮堤整備を一体的に、同じ内容の工事として考えてもらえないのか。また仮に同じ地区でも各箇所では防潮堤と各施設の高さが異なった場合、津波被害による海水の侵入などを考えると、防潮堤の低い部分から侵入した際の水の逃げ道がないとかえって危険であり、防潮堤整備の目的を考える上で矛盾を感じている。

当地区では気仙沼市水産課による漁港集落整備による意見交換会を6月28日に第1回目として、7月14日に2回目として開催した。専門家の先生として(株)漁村計画の池田純様、都市設計研究所の望月しんいち様他2名の方の助言をいただき、懇談会を進めている。内容は、漁業集落整備防災強化事業計画の説明と、専門家の方の意見、防潮堤問題と地域環境の整備などである。

次に、地区民の意見が一番多かった鶴ヶ浦漁港の部分の防潮堤の高さ TP+9.9m について申し上げる。これについて、高さをこのように設けた場合のメリット・デメリットを考えてみた。メリットとして、ある程度の津波の被害から人命や財産を守ることができるが、今回の震災規模の場合を考えると、まだまだ不安な気持ちが残る。デメリットとして地域の景観を害し、海の状態が見えないため危険であることや、設置する水門の開閉についても安全面の強化が必要になると思っている。必要な海岸土地の買収等により、地域の漁業、養殖業についての活動場所が減少してしまうことや、高くした場合の土地の買収面積が広がることにより、復興資金の金額の増大、地権者の承諾等について相当な時間を要するのではないかと考えている。また海側に造成すると、面積を受けるにしても地域環境の破壊や変化に心配を残している。

結論としては、現在の防潮堤の高さの原型復旧、地盤沈下した 90cm 程度を含むが、それらだけで良いのではないかと思う。工事後は 3.5～4m の高さになると思われる。高さを計画より低くしても、現在の地区の環境や地形を考慮しても人命を守ることはできる。まして、防災集団移転、大島架橋事業で現在より高い場所、架橋の道路予定だと現在より山側に 10m ほど高くなる。それに移動するので、関係施設等の計画もあるから問題はないのではないかと思う。復興資金の一部を、被災した公共施設、特に災害の避難場所やインフラ整備の強化に回していただければと思っている。現実には、昨年の震災時、海岸線にある道路が建物倒壊と電柱の倒壊により一時寸断され、途中の水門の橋も陥落して当地区が陸の孤島になった際、地区の生活文化センターを、震災時から昨年の 8 月初旬まで約 40 名の方が生活する災害避難場所として使用していた。新しい案で復興も遅くなるというのであれば、これからの工事に関する時間を考えても、いつどの程度の地震が来るか不明なのだから、お互いに納得できる方法を取り、今後の整備をお願いしたいと思っている。

困っていることとしては、資料にも載せてあるように、鹿浜の地域が他の地域と違って市の管轄となっているところが一部有り、会合に出席しても県管理地域の説明が主に提出されるので、そのギャップに今は戸惑っている。今後、大島架橋関連工事及び市の整備事業との兼ね合いを考慮しながら今後を考える時期に来ているのではないかと思っている。今後の動向等注意しながら見守っていききたいと思う。

#### 4. 報告への質疑応答 (Q=質問者、A=回答者：小松洋一 氏)

Q.先ほど 28 世帯 80 名ほどとあるが、この中ではどれくらいの数が話し合いに集まっているのか？

A.この理解の段階については 10 名弱。主に漁業、養殖に従事している方が出席している。一般の方は参加していない。通常の自治会の役員会、定期総会を開いているが、その場で一般の方から意見を聞くようにしている。今のところ第 3 回目が開催される予定はない。役所からも今後説明会を開くというように言われているが、日程は決まっていない。私た

ちとしても、地区ごとに考えたことを、現況の写真を添えて手紙として市長に出した。賛成反対は別とし、みんなが考えていることや地域の様子を市長に分かってもらうことを目的にしている。水産課の人によれば、市長もそれをお読みになり、分かっている、という話になっているとのことだった。

Q.資料の中で、防潮堤計画見直しの要望書が出されているとのことだが、どのようなものを出したのか？（事務局菅原）

A.要望書というのはまだ出しておらず、市長への手紙という形で意見を伝えた。

Q.現在地区に住んでいない人への連絡はとっているのか？

A.20世帯ほど減少しているが、今の状況で行くと浦島小学校の校庭の仮設や、鹿折中学校、五右衛門ヶ原の仮設、みなし仮設など様々なところに人々が住んでいる。自治体の活動は今はそんなに大きくできないので、ボランティアの方の協力を得て、何かイベントがあるときには手紙を出したり電話をしたりして連絡を取っている。みんなの連絡先は把握している。

### 3.（1）報告 各地区の現況報告 松岩片浜母体田前浜地区 畠山英あき 様

はじめに、名簿の方英彦になっていますが、英あきですので、訂正よろしくお願ひします。これまで当該地区において、防潮堤と背後地の利用についての議論は行われていない。しかしながら、市から委託を受けた財団法人漁場漁村技術研究所による漁業集落整備に伴う事前打ち合わせが6月11日、6月25日には意見交換会が開催され、漁業集落防災機能強化事業計画の説明が行われ、その中で7.2mの防潮堤の整備、それから海岸防災林復旧計画が示された。この会には沿岸4地区漁業関係者、自治体関係者数名の参加だったので、数名への説明・情報収集であった。そこで、9月末を目標に具体的な説明会を開催するとのことであり、その後具体的な住民の動きがないまま時間が経過しているところである。

今回防潮堤を勉強する会の発足・開催されていることを知り、また各方面からのお誘いを受け本日の出席に至ったわけだが、片浜東光会の会長を中心に母体田・前浜自治会に呼びかけ、今後3地区の自治会で集落整備に伴う協議会を立ち上げるべく準備に取り組んでいるところである。その関係者も今後本会に出席させていただき、今後の沿岸集落整備に伴うことに役立たせていただきたい。また、その時には防潮堤についても大いに勉強していかなければならないと思っている。

先程も皆さん方から出ているが、片浜地区においても約220世帯数のうち、震災後現在残っているのは24世帯である。残っているのは各地区話されているように高台の方々であるので、やはりどうしても防潮堤というものに関しては一歩引いていて、関心が薄れて



いるのが現状である。一方で漁業に取り組んでいる方々や、自治体の役員の方々に連絡を取り、3地区で整備に伴う設立の準備会を進めていきたいと思う。

#### 4. 報告への質疑応答 (Q=質問者、A=回答者：畠山英あき 氏)

Q.内湾地区の小野寺です。3自治体が沿岸部でバラバラに住んでいて本当にまとまるのが大変だろうなという思いがあるが、例えば今水没するような状態だと思ふ母体田の岸壁がどういふ距離になるのかという様なことを市から説明を受けたといったこと、あるいは御崎地区と行政区が違ふという理由で、面瀬地区と松岩地区に分かれていふが面瀬川が流れていふ関係で1つとして考えてもいいのではないかと思ふくらい密接な関係だつたと思ふが、そのあたりはどういふふうで考えていふのか。

A. 当初4地区といふことで御崎も含めて説明会を受けていたが、既に御崎が千岩田地区との関係で、そしてまた面瀬川との兼ね合ひがあつて行政区も面瀬・松岩と分散していふけれども、それまでは漁業者は松岩といふ1つの組織の中にまだあるので、それは今後の話し合ひで4地区の連絡になることが可能かと思ふていふ。

#### 3. (1) 報告 各地区の現況報告 内湾地区 畠山喜勝 様

魚町地区の畠山です。震災後、すぐに魚町地区では復興委員会を作りまして、その復興委員長になりました畠山です。我々は今まで27回の会合を開いてきた。その中で、何にも決められない状況で皆さんにお話をするのはすごく心苦しいが、その後3区さんと1区さんと合同の委員会を開き、魚町地区全体をどうしようかといふ話になつていたが、その後南町地区と魚町地区での内湾協議会といふものが設置され、その中に魚町地区、南町地区、入沢地区、柏崎、太田、陣山、八日町と、そういう方々と一緒になつて内湾をどういふ形にしていくかと協議をしていふ。

しかし、その中でもなかなか市からの決定事項の情報がもの凄く少ない中でやつていふので、我々2区の地区もなかなか難しい状態になつていふ。また、決まつた事では、とにかく復興住宅を作つてくれといふ事をお願いした。それで、魚町地区では復興祭を行ひ、「魚町っつあもどつてくっぺし」といふ合言葉に、さだまさしさんなども呼んで、とにかく分散した方々を一カ所に集めて皆さんで魚町をどうしたらいいかといふ話し合ひを行ひ、そこでお祭りをやつた。

ただ、27回もやつていふが、なかなか大事な問題を決めようとしても決定事項がなかなか出来ない。なぜかといふと、内湾地区のコンペをした。そのコンペで、我々は浮上式がいいのではないかといふことで、浮上式をお願いしたいと思つていふ。ところがこの陳情活動を行つた結果、知事は絶対だめだと、市長も無理だろうといふ話になり、そうすると今後は防潮堤の問題になつてきた。防潮堤も、6.2mの防潮堤を作るのも、我々にとってはすごく監獄の中に入つていふような状況になる。それは何かといふと、海側から最短の所で20m、最長が24mくらいである。その前に6.2mの防潮堤を作られると、監獄

の中に入っているみたいだということで、何とかこの防潮堤の高さを下げてくださいかと、何回かお願いしたが、県も、市も6.2m以下は絶対にだめだという話である。

ただ我々が思うのは、海から見た6.2mで、陸側から6.2mを見た事あるんですか？ということで、たまたま知事が来た際、6.2mのネットを海岸に貼った。知事も見て、「あ、これは高いね」とは言うが、じゃあ変えますということは一言も言わず帰った。陳情活動をしようと思った訳ではなく、実際問題この高さでどうしていくという事を、我々は訴えたかった。それに現実問題として、魚町2区は60世帯いたが、そこで家を直して住んでいる方は10軒いる。また、店などだけで営業活動をされている方が4軒。間もなく、仮設であと3軒ほど増える。ただ、そのような状況下で、6.2mの高さの部分で圧迫感を感じながら生きていけないということで訴えるのだが、国が決めたことはだめだと。

そしてもう一つは、6.2mのシミュレーションはどうやって決めたのだ、ということで、今度県から説明をして頂く事になっているが、どんな説明があるのかはわからない。

あそこにネットをはった理由は、こんな生活をしなければいけないのだということを示したかった。市も県も6.2mの防潮堤を建てても、6.2m以上に住みなさいという事です、6.2m以下では住めないと。ということは、6.2m以上の家を建てなさいという事です。我々の地域は、昔は商店街など色々あったが、震災前は住宅地化していた。住宅に住んでいる方々というのは、65歳以上の方々が大部分だった。それでもし決定されたとしても、いつ造ってくれるのか、いつ決定なのか、かさ上げをどうするのか、道路もどうするのか、まだ何にも決定していないで、我々に色々な計画を立てろといっても絶対無理だと思う。私も65歳だが、決定されて色々整備されるのに10年かかったら私も75歳で、そのような状況下でやろうとするのはなかなか難しい。

また、高さの分もそうだが、我々のところは防潮堤も無かった。要するに復旧ではなく復興になる。そうすると復旧だと3年以内でやると言っているが、復興だと5年かかる。そのような決められない状態の中で、27回会合をやってきた。

みんなで話をしたところでは、やっぱり高さはだめだと。じゃあ防潮堤は何のために造るのか、という話を県の方にした。返答は、今住んでいる人のためだということ。新しく住む人たちのためではない。今住んでいる人のために6.2mの防潮堤にしますと。ところが今住んでいる人たちがいないと言っている。その狭間で、どのような形でこれから運動していくかなというのがすごく心配である。

我々の資料を皆さんにお配りしたのは、この今までの経過経緯も含めて、みんなで話し合った内容です。防潮堤の問題から始まって、復興住宅のことを皆さんがどうするのか、それから以前はどうやって逃げたのかということで、まとまっているようでまとまっていないのだが、この様な話し合いをずっと行ってきた。何か虚しさを感じた。

ただ、これからの問題だと思う。これからどんな形でやるか。反対してそのままの状態だったら市は何にもしてくれない。では、建ててもらってその後どうするか、それもまた大変。非常にジレンマの中で一生懸命になって話し合いをしている。

内湾協議会については、まず始めに内湾の中でコンペをやった投票を行い、浮上式が12票入り、防潮堤が9票入った。一番が浮上式だった。それで、何とか浮上式をやってもらいたいということで、知事に対しての陳情活動をした。それをだめだと断られた。そうしたら、内湾地区として代わるものは何かということで考えても、やはり防潮堤しか無い。防潮堤しかないが、6.2mではだめだと言っても、このラインはいくら言っても変わりそうにない。また、非常に悩ましいのが、我々魚町はいいとしても、三日町、八日町に津波が来たらどうするのか、という話もある。じゃあ後ろの方に造ってほしいといってもそれもなかなか難しい。この話を整合させるのはなかなか大変だと思っている。我々だけが、一生懸命話し合っただけで防潮堤はいらないと言っても、今度は魚町地区以外の八日町、三日町の方に行く可能性がある。そういうことで、1地区だけの問題ではなくなってしまっているのだから、我々としては決定してこれでやってくれと、お願いをしにいてもいいのかなというところまで追い込まれ、みんな話し合いをするのだが、決定はなかなか難しいと思っている。ただこれは、県とか市の合意があればいいのだというが、どうやって合意形成すればいいのかというのが一番難しく、それが一番悩ましい。

最初は浮上式だったらプラザホテルの入り口のところからやってくれ、とお願いしていたのだが、それも知事は50年100年しかもたないやつはやれないと言っていたが、普通のセメントの防潮堤も50年である。そういうと、機械だからだめなのだと言う訳です。機械というのは必ず壊れると。今でも諦めたつもりはないのだが、話の成り行きや進み方は、どうも浮上式防潮堤は難しいかなと思っている。

#### 4. 報告への質疑応答 (Q=質問者、A=回答者：畠山喜勝 氏)

Q：南町は容認しているのではなくて、理詰めでだんだん詰められていって、最後にうんと言わされている感覚があるが、誰もやってほしいと思っている訳ではないので、その辺りはよろしくお願い致します。いくら理詰めでやられても皆でこれからも一緒に頑張っていきたいと思っているので、よろしく申し上げます。

A：私も出来た後の事を考えると、本当に100年後の人が何でこんな物をつくったのか、言われかねない状況が出来てしまうのではと思う。魚町の人々が「魚町つつあもどつてくっぺし」って一生懸命やったのに、造るといって我々の命を守ると言ってくれたのに、かえっていなくならせる、住むなと言っている。何とか今住んでいる人達が、うまい具合に住みたいと思える町を作ってもらいたいということなのです。命は我々が守りますから。一つは、魚町の海岸通の人たちは、誰一人として亡くなってないのです。地震が来たらみんな逃げると言うことをやっていた。たまたま一人亡くなっているのだが、別な地域にいて亡くなっているのです、魚町の通りにいた人は一人として亡くなってないのです、みんな逃げました。逆に裏の旧45号線の人たちで亡くなっている人がいます。たった10mも無いのだが、ここまで波が来た事はないから大丈夫だということで、逃げなかった人た

ちが亡くなった。ただ前の人たちは地震があったら津波がくる、という訓練していた。だから、国とか県とか市が守ってくれなくても、自分たちで守るといってもだめ。だからこれからの段階は違った戦い方をしなければならないと思っている。

Q：27回会合を開催されたとのことなのですが、うちの地区の場合は半分くらい世帯数と人が減りまして、割と高齢者が多い。若い人がなかなか誘っても出てこないというのが現状なんです、人集めの極意などを教えて頂けますか？

A：うちの行政区長がいるのですが、散り散りばらばらになった人の住所を全部調べた。要するに復興住宅にいる人とか、借り上げ住宅にいた人とか。それに加えて、壊れたものあそこに住んでいる方が10名ほどいる。大体その方が中心になって人を集めた。あとは、我々は定期的を開催している。10日ずつやっている。それはここで司会をしている気仙沼商會のご尽力によりまして、部屋を貸して頂いている。そこを利用しながら、10日に必ずやっているから来てください、と伝えていると大体15、6人くらい集まる。進まないけど、なんだかんだと皆で話し合いを重ねている。その結果が我々の資料として皆さんに配布しているもの。やっぱり話さないでだめで、右左ということはない。だんだん近づいていく。だから、県とか市とかに私たちがだんだんに話して、だんだん近づきたいなと思っている。近づくのも戦いの一つです。

Q：内湾地区は気仙沼の顔になる土地だと思いますし、あそこの周りが栄えたら素晴らしいと思うのですが、景観だとか、観光的な要素はあの地区に住む人たちにとって財産になりうるものでしょうか？

A：当然それは財産になる。市が言っているのも、海と生きると言っている。それなのにあれをやられたら、海と生きられない。だから、あの景観は是非残して頂きたいと思う。今までの議論では、あの6.2mは何のために造るのかと聞くと、人の命を守るためと言った。そしたら、次に色々詰めていくと、今度は景観どうのではなく財産を守るという。だから我々も財産はいいと、もしまた流されたらまた造るという話をすると、次は公共物を守ると言ってきた。公共物ってなんだ、と言うと、魚町地区は公共物がない。そして最後は何かといったら、道路だという。私も話し合いを持ち続けなければいけないと思っているのだが、だんだん腹が立ってくる。市長も元魚町地区で、小野寺五典代議士も元魚町。二人とも本当に考えてくれているのかと思う。本当に真剣になって、色々なことをやってもらえればなと思っている。

### 3. (3) 全体の報告への質疑応答 (Q=質問者、A=回答者： 氏)

Q. 各地区の市議会議員がどのように携わっているのか？また携わってほしいという希望はあるのか？階上地区の時は市議会議員が発表をして資料もまとめてくれたのがとても良かった

った。

A. 唐桑大沢地区：議員に任せるのがベストだが、住民が声を上げるのが最優先。困ったときには議員に頼るべきだが、現状としては住民が主体となって進めているので問題ない。今まで10回くらい集まりを行ったが、全て議員にも報告し見学に来てくださいますとも伝えており、終わった後に話もしている。行き詰った時には力を借りるかも。

鮪立地区：議員をあてにはして仕事をしているわけではないが、困ったときには相談に行きアドバイスを受けている。

鶴ヶ浦地区：2人いるが、2人の議員さんとも被災しており、地区を離れて別々に生活している。地区の行事、会合がある度、連絡をして報告している。全体の3割程度の出席。要望書に関してもこれから相談していく。

松岩地区：現実に動いていないので議員との連絡は取っていない。

内湾地区：内湾協議会自体が市と一緒に動いている。

(司会) 議会としてどう動いていくかはこれからのテーマ。

#### **4. 課題の整理：菅原昭彦**

「第4回までに見えてきた課題と今後のテーマ。発起人会で出てきたもの。

- ① 根本的な堤防高の根拠となっている津波シミュレーションに対する住民の疑問：何を根拠にこの高さが出てきているのか？
- ② 防潮堤建設と表裏一体の市防災整備計画および背後地の利用計画との関係：住民と漁港利用者との調整、旧居住地の復旧計画が見えてこない。
- ③ 防潮堤の海側に建てられるものは何か：不透明である。
- ④ 守られるべきものは何か。
- ⑤ 何をもちて合意とするか：国、県、市の説明のどれもが最後は合意です、各地区で住民が話し合いをして、県と市と話し合いをして決めていくと言うが、どの時点で合意がとれたとなっているのか。合意形成の手法として、どうやって1つの意見にまとめるのか。今後整理が必要。
- ⑥ 専門家の支援の必要性：関与を必要とする地域もあるように感じる。

次回は何人かの専門家に来ていただき、それぞれの活動内容について報告してもらい、こういうことを手伝ってほしい、こういうことは手伝ってもらえるのかなど聞いてくださ

い。合意形成の専門家、シミュレーションの専門家を複数人呼び、皆さんに紹介する。9月以降については発起人会で調整中。

9月3日、気仙沼市議会に対して発起人の総意として震災復興特別委員会の活動経過報告を行う。特に防潮堤について聞かすが、市の情報が市議会にいっぱい入っているというわけでもない。防潮堤というよりも震災復興にあたって、委員会がどのような活動をしてきたのか報告をいただく。

9月11日、第7回目については、合意形成の方法について話をいただく。守るべき財産は何かということを考えながら、来ている方の参加型で合意形成の手法について研究していただく。

それ以降は講師の予定に合わせて勉強会を調整していく。

津波のシミュレーションについて中央防災会議の委員で当時の復興会議の委員でもある今村先生にお話しいただく。

防災事業とまちづくりについて、背後地の利用の考え方も含め、東北大学院の平野先生により、防潮堤とまちづくりの関係、防潮堤の高さの決定経緯、防潮堤の高さは変えられるものなのか、防災事業とまちづくり事業とどのようにくっつけていけば良いのかという点についてお話しいただく。

巨大堤防の功罪、気仙沼市の観光戦略会議でも市議会でも視察に行っている奥尻島を題材として北海道大学の先生に話していただく。映像を見ながら実際に出来上がっている状況から勉強する。

最終回到気仙沼市長との意見交換会を行う。当初、中間で意見交換会を予定していたが、決断を迫る形になる恐れもあったので、最終回という形で行う予定としている。

皆さんの意見はどうか。

(司会) 正式に決まるのはこの後の発起人会で決定。先駆けて意見、質問を伺いたい。最終的に市長と意見交換会をする前に、議会とどのように連動していくかも中間で検討していきたいと思っている。議員の指導もいただきながら進めていきたい。

Q.本吉の及川さん。去年の早い時期に、岩沼市では丘を作って津波の被害を減災するという考えのもとに実際に1つ目の丘が出来ていると聞いているが、そういったものを見学するような企画は無謀か？

A.命を守る森の防潮堤の考えの事だと思うが、事例の紹介ということでご要望があれば検討していきたい。

ーコメント (首都大学 横山先生)

津波シミュレーションに対する疑問の声が上がっているが、これは1つの仮定に基づいているに過ぎない。出た結果をどうするかはみなさん次第。シミュレーションが正しいか正

しくないかを言い出すとキリがない。国の試算だと堤防高はこうで、住民側が専門家を呼んで計算し直すともう例えば50cm下げられるといった試算を出す。計算の前提が異なれば、結果も変わってくるので解決を見ない。シミュレーションは前提条件で計算するので、そこをついても答えは出ない。1つの基準にすぎない。このあたりは事前に了承していただいて話を聞いてもらわなければならない。シミュレーションそのものに疑問を呈しても仕方がない。

また、どういったまちづくりをしたいか、といった点を明確にしながらかえていかないと、行政の提案を少し変更したのみで終わってしまう可能性もある。あるべき地域の姿を議論して、その中で防潮堤をどう位置づけ、全体像を見据えて考えていく方が良い。

Q.魚町の今野さん。今回は防潮堤を勉強する会であるが、なぜ防潮堤が決壊したのか、防潮堤が命を守るうえでどんな役割を果たしたのか、あるいは果たせなかったのか、と言ったことに関する因果関係を専門家に話してほしい。何を守るための防潮堤なのか、主旨と意味合いと、この辺りを踏まえたくて学んでいきたい。

A.意見としてちょうだいしておきます。

Q.階上長磯浜の敏川さん。守屋議員は避難所での運営などで大変力を貸してくれたが、前回説明にあった各地区交換会で、困っている点の中で住民が共に考える場が不足しているということがあり、漁民の方と復旧復興に向けて話し合いをしているのだが、なかなか話してくれない。早い機会に共に考える場を作ったのだが、思うようにいかない。早いところを集めて方策を考えろと言われ、階上地区の6か所ほどの各小さい漁港、小さい集会で本音を言ってもらい、それをまとめようとしている。明日から階上地区では6か所の小さい漁港単位で話し合いの予定。各地区交換会の資料の階上地区の部分についてだが、防潮堤不要論が入っているので地域事業者と一線を画しているようだ、とある。自分も「海辺の森をつくろう会」に入っており、集会などではその会の方が多く発言をする。それは、防潮堤はいらないといった防潮堤不要論ということではない。誤解を持って理解されているがそういうことではない。むしろ積極的に復興を考えている。

(司会)「海辺の森をつくろう会」は防潮堤反対の会ではなく、早期に復興を目指す団体である。

## 5. 閉会の挨拶 (司会)

「以上をもちまして第5回防潮堤を勉強する会は終わります。次回は8月29日(水)魚市場3Fで、18～20時に行われます。」

以上